



上手に使いたい「ふくろ」の中身

校長 横須賀和男

「ふくろ」という言葉からどんなことが想像できるでしょう。

- *プレゼントのいっぱい入った「サンタクロースのふくろ」
- *七福神の大黒様が背中に背負った「福ぶくろ」
- *買い物をした時の「お店のふくろ」
- *お母さんという意味の「おふくろ」*****

「ふくろ」という言葉には、何となく温か味があります。

さて、この「ふくろ」を私達の日常の生活に関連づけて考えてみましょう。

私達人間は、その人に応じた「ふくろ」を持っています。「ふくろ」の中には様々なものがいっぱい詰まっています。それは、愛情・厳しさ・優しさ・自律心・受容心・涙・感動・忍耐等の精神的価値と生活に必要な知恵など、人間が生きる上で必要不可欠なものばかりです。そして大人は、当然子ども達より大きな「ふくろ」をもち、経験とともに膨らみ、その内容も多彩なものとなります。

親は子どもを育てる際、この「ふくろ」の中身を使います。どのような時に「ふくろ」から何を取り出して、どのように与えるのか。実はその判断が大変難しいのです。

- *今、与える時期なのに、与えない。
- *今、がまんさせるべきなのに、与えてしまう。
- *今、話を聞いてやるべきなのに、振り払う。
- *今、突き放すべきなのに、手を出してしまう。

愛情とは、本当に必要な時に必要なものを与えてやることです。

時期を逸すれば、また、与え方を誤れば、子どもにとって大きなストレスとなり、精神面や行動面に様々な影響が出てきます。親が良かれと思ってしたこと逆効果となり、返って子どもの成長を妨げ心の傷口を広げる結果となってしまいます。

子どもには、一人一人発達に差があります。兄弟であっても、その子によって与え方が違って当然です。

社会の変化が激しく洪水のように物と情報が溢れる中、ぼんやりしていると取り残されそうに思うのは大人だけではありません。子どももそうした流れの中にいるのです。親としては、「他の子と比べてわが子は遅れていないか？」等、子育てに焦りが出てくるのも当然の事だと思います。しかし、そんな世の中だからこそ、親は周りに振り回されるのではなく、一歩下がってより広い視野でわが子の成長を見つめる必要があるのではないのでしょうか。

城陽市立古川小学校
冬休み号
平成23年12月22日
(2011年)



平成24年1月10日(火)

[平常通り、集団登校です]

B4校時 12時10分頃下校
<持ち物> ○上靴 ○筆記用具 ・学年の宿題など

1月学校行事予定

10	火	B4校時 始業式 大掃除	24	火	⑥クラブ
11	水	給食開始 生活調べ(~24日) 体位測定(1、2年) PTA選挙管理委員会	27	金	入学説明会・半日入学
12	木	体位測定(3、4年、たんぼぼ)	30	月	AET来校(~3日)
13	金	体位測定(5、6年) 書き初め展 授業参観(2、3校時)	31	火	避難訓練 ⑥クラブ
16	月	書き初め展	2月の主な行事		
17	火	⑥委員会 PTA本部役員会	3日(金)	北城中体験入学(6年)	
19	木	教育相談日	7日(火)	授業参観懇談会(高学年)	
			14日(火)	授業参観懇談会(低学年)	
			23日(木)	6年生を送る会	
			24日(金)	特別支援学級卒業生を送る会 教育相談日	

書き初め展の御案内

- 日時 平成24年1月13日(金) 16日(月) [午前9時~午後5時]
- 場所 各教室前廊下
- 各学年の課題

1年「お正月」(マーカー)	2年「新しい年」(マーカー)
3年「お正月」(毛筆)	4年「美しい空」(毛筆)
5年「新春の光」(毛筆)	6年「伝統を守る」(毛筆)

読み聞かせ(12/14・水)

読書ボランティアの方々により、読み聞かせをしていただきました。たくさん子どもたちが参加し、真剣にお話を聞いていました。読書ボランティアの皆様、ありがとうございました。

